

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名 称	保存期 CKD 患者の血管障害にリン吸着薬が与える影響の検討 (炭酸ランタンと炭酸カルシウムのオープンラベル・ランダム化比較試験)
氏 名	松井 功
所属機関	大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学
<p>研究期間中に 19 名が本研究にエントリーし、炭酸カルシウム群に 12 名、炭酸ランタン群に 7 名が割り振られた。試験開始時の患者背景は eGFR 7.6 ± 3.1 ml/min/1.73m²、血清 P 5.53 ± 1.31 mg/dL、尿蛋白/尿クレアチニン比 2.81 ± 2.25 g/gCr、尿 P/尿クレアチニン比 0.414 ± 0.091 g/gCr、reactive hyperemia index (RHI) 1.57 ± 0.33、augmentation index (AI) $25.47 \pm 25.94\%$、冠動脈石灰化指数(CACS) 32 (5-109.25)であった。CKD stage 5 でのエントリーとなったため、試験期間中に腎代替療法が開始され、これに伴う本研究からの離脱が炭酸カルシウム群に 4 名、炭酸ランタン群に 1 名認められた。また、掻痒感や味覚障害などの副作用による離脱を炭酸ランタン群に 2 名認めた。なお、炭酸カルシウム群では副作用による離脱は認められなかった。</p> <p>試験開始 3 か月後の時点で EndoPAT による血管内皮機能を評価した。その結果、エントリー時点と比較して統計学的には有意でないものの RHI は 1.77 ± 0.47 と上昇(改善)傾向を示した。また試験開始 3 か月時点では、eGFR 6.7 ± 3.7 ml/min/1.73m²、血清 P 5.02 ± 1.33 mg/dL、尿 P/尿クレアチニン比 0.344 ± 0.091 g/gCr であった。通常の外來診療では、血清リン値が基準値内に収まっている間は高リン血症が引き起こすさまざまな合併症について教育する機会がほとんどなく、本試験にエントリーした患者の多くは試験内容の説明を受けるときに初めて高リン血症の危険性を自覚したものと考えられた。このため、試験開始 3 か月時点における血清 P 値の低下は、薬剤による影響以外に食事制限による影響も考えられた。</p>	